

平成 21 年度 第 1 回日本家庭医療学会理事会議事録

日 時：平成 21 年 8 月 9 日（日）8:00～12:30

会 場：ホテル磯辺ガーデン舌切雀のお宿 清流（大）

出席者：代表理事 山田隆司
副代表理事 竹村洋典、葛西龍樹
理 事 朝倉健太郎、雨森正記、大西弘高、大橋博樹、草場鉄周、
小林裕幸、長 純一、西村真紀、伴信太郎、前野哲博、松
下 明、横谷省治（以下は、委任状による出席）内山富士
雄
監 事 亀谷 学、山本和利
幹 事 福土元春
若手家庭医部会 松井善典
後期研修医 横林賢一
学生・研修医部会 名越康晴
欠席者：理 事 藤沼康樹

1. 会員数報告、新入会員承認、会費未納退会者

山田代表理事より、2009 年 7 月 31 日現在の会員数について報告があり、退会者の殆どが会費滞納による退会であることが説明された。

つづいて新入会者について承認された。

会員数：2,035 名（うち、医師会員 1,888 名）

入会者： 174 名（2009 年 2 月 1 日～2009 年 7 月 31 日）

退会者： 70 名（2008 年 2 月 1 日～2009 年 7 月 31 日）

復帰者： 0 名（2008 年 2 月 1 日～2009 年 7 月 31 日）

未納者： 80 名（2006 年 3 月 31 日まで納入済み、2009 年度末時点で未納の場合、
退会となる人）

会費未納率：37%（2009 年 7 月 31 日現在）

2. 平成 20 年度収支決算報告

山田代表理事より、平成 20 年度の事業報告および収支報告について説明がなされた。収

入の部では、会員数の増加や第16回家庭医の生涯教育のためのワークショップの参加者数の増加、Sceneの販売収益により予算を上回る収入があったことが説明された。支出では学術集会やセミナー、ワークショップの殆どが予算を上回ったこと、3学会合同会議で各種委員会が設置されたことにより支出が増加したこと、会員数の増加に伴い印刷費、通信費等の管理費増加したこと、また会誌発行回数が1回減ったことによる支出減少などについて説明があった。

3. 同年度監査報告

亀谷監事より、会計監査を行った結果、適正に管理されている旨を確認したことが報告された。つづいて、監査および事業報告・決算内容について承認された。

4. 常設委員会・部会報告

◇ 編集委員会

藤沼理事が欠席のため、次回理事会での報告事項となった。

◇ 広報委員会

松下理事、朝倉理事（WEB担当）より、広報委員会の活動について以下の報告があった。

●会報について

予定通り年4回の発行を継続している。情報量の増加によりページ数が増えてきている。

●患者一般向け出版物について

あまり進んでいないが、合併前になんとか話を進めたい。

●学会HPについて

求人広告欄を設置することと、研修医向けの情報発信を充実させていく予定。

●市民向けHPについて

協力者を募って動き始めているが、なかなか具体的に進んでいない。

◇ 生涯教育委員会

伴理事より、生涯教育委員と協力委員による、生涯教育WSの企画立案や委員会活動について報告があった。出版活動としては『SCENE』の改訂版について報告された。また、生教育委員メンバーが交代で会報の「生涯教育のためのツール」コーナーの連載を担当していること、今後は認定専門医に対する生涯教育の事業が拡大することが予想されるとの報告があった。雨森理事より、11月に開催が予定されている第17回生涯教育ワーク

ショップについて説明があり、9月中旬に例年通り募集を開始する予定であることが報告された。

◇ 研究委員会

大西理事より、二週間後の学術集会にて学会賞の事業を行うこと、研究補助金事業は再公募で4題の応募があり、現在再審査を行っていることが報告された。また、臨床研究初学者のための勉強会の開催状況および今後の開催概要等について説明があった。

◇ 倫理委員会

山本理事より、前回の理事会以降3件の申請があり、うち2件は審査を終え1件は審議中であることが報告された。

◇ 後期研修（認定）委員会

竹村副代表理事、大橋理事より、本年度は13の後期研修プログラムを認定したこと、第1回家庭医療専門医認定試験では14名が合格したこと、専門医認定試験の採点基準は公表しないこと、専門医の認定期間をPC学会の認定期間と合わせるため6年としたことについて報告があった。

また、来年度以降の認定制度については、三学会合同会議および三学会合同認定制度検討委員会にて継続審議中であること、新たに三学会合同専門医認定医経過措置等検討委員会が発足したことが報告された。

◇ プログラム責任者の会代表

竹村副代表理事より、2月に開催されたプログラム責任者の会では、特に大きな変更事項や理事会での審議事項はなかったことが報告された。

◇ FD 委員会

草場理事より、指導医養成ワークショップの開催状況、今後の方針等について報告があり、今後はポートフォリオに関する内容を中心としたワークショップが必要と考えていることが述べられた。また、合併後の同ワークショップの扱いについて三学会の委員会検討委員会で検討してほしいとの要望が出された。

◇ 若手家庭医部会

朝倉理事より、専門医試験が若手の間でも関心事項となっていること、後期研修修了者を

対象に研修内容や研修の成果などについてアンケートを行っていることが報告された。

つづいて若手家庭医部会の松井氏より、第冬期セミナーの報告があり、次回の冬期セミナーでは定員を20名増やして2010年2月13日・14日に東京大学で開催する予定であることが報告された。

5. ワーキンググループ報告

◇患者教育パンフレット作成ワーキンググループ

松下理事より、患者教育パンフレット作成作業は予定より進行が遅れていることが報告され、進行や計画の改善について意見交換が行われた。

6. 平成21年度事業計画および予算について

山田代表理事より、平成21年度事業計画について説明があり、前回の理事会以降に「家庭医療に関する調査研究、家庭医療にかかわる研究計画の倫理審査」および「プログラム責任者の会」が事業として新たに追加されたこと、合併後も継続して事業を行うため三学会合同会議に提案する予定であることが述べられた。予算については、現時点では年度末に200万余の現金が残る予定であることが説明された。

つづいて、平成21年度事業計画および予算について承認された。

7.3 学会の合同について

山田代表理事より、3学会合同会議の報告があった。

- ・ 名称は「日本プライマリ・ケア連合学会」として新学会をスタートさせ、新学会設立後に名称検討委員会（仮称）を設置し、継続的に学会名について審議していく予定
- ・ 専門医の名称は「家庭医療専門医（通称：家庭医）」および「病院総合診療専門医（通称：病院総合医）」とすることで継続審議中
- ・ 新学会は一般社団法人としてスタートし、その後に公益社団法人を目指す
- ・ 役員は直接選挙、間接選挙（地域ブロックで選出された代議員（仮称）から選出する理事）および推薦理事の三種類とし、新学会設立後に選挙制度検討委員会（仮称）を設置し審議する予定
- ・ 事務局は、窓口的な調整機能は学会で雇用するが、雇用形態、雇用契約については詳しく協議を行っていない
- ・ 残余財産の処分は、合法的に新学会に帰属させる方向で引き続き検討する
- ・ 解散決議のための総会出欠買う人作業は、最優先事項として事務局で取り組んでいる

8. 家庭医療専門医認定について

今回の専門医認定試験および来年以降の合同での専門医認定試験について、意見交換が行われた。

9. 専門医認定医経過措置検討について

竹村副代表理事より、今後、専門医認定医等経過措置検討委員会で議論される経過措置について、理事会としての意見をまとめたいとの要望が出され、主に PC 学会の専門医の経過措置および PC 学会の認定医についての意見交換が行われた。

10. 後期研修プログラム中の他の専門医への参加について

竹村副代表理事より、後期研修プログラム中に研修医が他の専門医へ参加するために中断することを容認すべきかどうかについて、実際の例をもとに協議が行われた結果、今回の事例では3年を期限として中断届を受理することとなった。

11. 学会認定後期研修プログラム用各種提出書類の書式の変更案について

大西理事より、学会認定後期研修プログラム用各種提出書類の書式の変更案が提出され、一部を修正したうえで承認された。

12. 第24回(平成21年度)学術集会について

雨森理事より、学術集会について挨拶があった。